

第3回 あま市小中学校あり方検討委員会 会議録（大要）

開 催 日 時	令和4年6月28日（火）午前9時30分～午前11時35分
開 催 場 所	美和公民館 1階 実習室
出 席 委 員	1 委員長 山田 貞二（岐阜聖徳学園大学准教授） 2 委員 溝口 紘（有識者） 3 委員 加藤 万佐子（あま市立宝小学校校長） 4 委員 安江 利成（あま市立甚目寺南中学校校長） 5 委員 溝口 由紀江（あま市保育園保育士長） 6 委員 林 弘樹（宝学園（中川幼稚園）理事長） 7 委員 佐藤 明美（保護者） 8 委員 古川 式規（財政課長） 9 委員 早川 敬成（企画政策課長） 10 委員 恒川 和宏（子育て支援課長）
欠 席 委 員	欠席 副委員長 小林 優太（愛知教育大学非常勤講師）
事 務 局	1 松永教育長 2 鎌倉教育部長 3 日比野教育次長 4 徳永学校教育課長 5 内山生涯学習課長（代理主幹出席） 6 大堀スポーツ課長 7 寺澤学校給食センター課長 8 水野指導主事主幹 9 書記野々目課長補佐
傍 聴 人	0人
議 事 日 程	(1) 委員の紹介（異動による） (2) 今回ご意見を頂く議題の紹介（再） (3) 前回までのご意見まとめについて (4) 小中一貫校・小規模校と大規模校の賛否及び期待すること懸念すること、課題 (5) 施設の共有化・複合化の賛否及び期待すること懸念すること、課題 その他

発言者	議事の概要																								
山田委員長	<p style="text-align: right;">【開会時刻 午前9時30分】</p> <p>定刻となりました。 本日はお忙しいところ、ご出席いただきありがとうございます。それでは、ただいまより第3回あま市小中学校あり方検討委員会を始めさせていただきます。</p>																								
山田委員長	(挨拶)																								
山田委員長	最初に本日の資料の確認を事務局にお願いします。																								
学校教育課長	<p>本日の資料の確認をお願いします。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 5%;">1</td> <td style="width: 75%;">次第</td> <td style="width: 10%;">A 4</td> <td style="width: 10%;">1 枚</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>委員名簿（令和4年4月1日現在）</td> <td>A 4</td> <td>1 部</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第3回資料一覧</td> <td>A 4</td> <td>1 枚</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>小中学校のあり方に関するご意見</td> <td>A 4</td> <td>15 枚</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ご意見聴取用資料</td> <td>A 4</td> <td>1 枚</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第4回委員会の日程調整のお願い</td> <td>A 4</td> <td>3 枚</td> </tr> </table> <p>以上です。</p>	1	次第	A 4	1 枚	2	委員名簿（令和4年4月1日現在）	A 4	1 部	3	第3回資料一覧	A 4	1 枚	4	小中学校のあり方に関するご意見	A 4	15 枚	5	ご意見聴取用資料	A 4	1 枚	6	第4回委員会の日程調整のお願い	A 4	3 枚
1	次第	A 4	1 枚																						
2	委員名簿（令和4年4月1日現在）	A 4	1 部																						
3	第3回資料一覧	A 4	1 枚																						
4	小中学校のあり方に関するご意見	A 4	15 枚																						
5	ご意見聴取用資料	A 4	1 枚																						
6	第4回委員会の日程調整のお願い	A 4	3 枚																						
山田委員長	それでは、市教育委員会を代表しまして、教育長よりご挨拶をお願いします。																								
教育長	(挨拶)																								
山田委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>本委員会の議事録の概要を市ホームページで公開するため、事務局が委員会の内容を録音させていただきますので、ご承知おきください。</p>																								
山田委員長	それでは、「議題（1）委員の紹介（人事異動による）」に入ります。事務局をお願いします。																								
学校教育課長	<p>市役所職員の委員のお一人が、人事異動で変更となりました。</p> <p>あま市保育園保育士長での委員が、昨年度は岩井小百合（イワイ サユリ）委員でしたが、今年度は溝口由紀江（ミゾグチ ユキエ）委員となります。</p> <p>また、事務局も人事異動がありました。</p> <p>詳しくは、お手元の委員名簿令和4年4月1日現在をご覧ください。</p> <p>以上です。</p>																								
山田委員長	<p>新年度となり、人事異動で行政の委員が変更となりました。</p> <p>それでは、溝口委員（保育士長）ひとことお願いします。</p>																								
溝口委員	(挨拶)																								
山田委員長	ありがとうございました。																								
山田委員長	それでは、「議題（2）今回意見を頂く課題の紹介（再）」に入ります。事務局説明をお願いします。																								
学校教育課長	<p>前回の第2回委員会で、ご意見を頂くテーマの統合について検討いただきました。その結果、今回は、</p> <p>①小中一貫校、小規模校と大規模校について</p> <p>②施設の共有化・複合化について</p> <p>以上の2つのテーマについてご意見を頂くこととなります。2つのテーマについては、今回まででいただくご意見で報告書を作成する予定と</p>																								

	<p>なります。</p> <p>今回ご意見を頂くに際して、第1回にご説明してから時期が開いておりますので、担当の方から再度それぞれのテーマについてご説明をいたします。</p> <p>なお、再度の説明ですので本日事務局から資料はご用意しておりませんが、資料をご持参いただいた委員の方々については、そちらをご覧になりながらお願いします。</p>
書記	<p>ご説明します。</p> <p>本日、資料をご持参いただいた委員の方がたについては、小中学校のあり方①小規模校と大規模校のA3一枚の資料をご覧ください。</p> <p>全国的な少子化の流れの中、あま市においても、児童生徒数はゆるやかな減少傾向にあります。特に南部地区において、児童生徒数の減少傾向が顕著であり、今後上昇に向かいにくいことが確認いただけました。</p> <p>現在の小中学校については、平成22年3月にあま市が合併により誕生する以前の、高度経済成長期以降の昭和40年代から昭和50年代に建設、設置されました。この時代は、その後いわゆる団塊ジュニア世代と言われる子供たちが生まれるころでもあり、児童生徒数が大きく増加傾向にあった時代でもあります。</p> <p>児童生徒数が大きく増加傾向にある時代の小中学校のグランドデザインのまま、今後の少子化による減少傾向の現在も、はたしてあま市として持続可能な教育が行っていけるのかという問題が根底にあります。</p> <p>現在の各小学校区の児童数配置は、半分以上が東部地区にあり、比較的大規模な学校が2校あります。</p> <p>また、南部地区は全体の2割程度の児童がいますが、学校数は東部地区と同じ4校で4あることから、小規模校が2校あります。</p> <p>この問題は、今始まった問題ではなく、合併直後から話し合わせ、検討が重ねられてきた問題でもあります。当時、その中で話し合われていた手法としては、一つが学校の統廃合、二つ目が通学区域の再編です。</p> <p>合併後10年余りの期間、複数個所で話し合われてきましたが、全ての地域において実施には至っておりません。唯一、七宝小学校、美和東小学校、篠田小学校の6年生が中学校に進学する際に、住所による学校の他、七宝北中学校を選択することができる選択制度が開始されました。</p> <p>ひとつお伝えしなければならない点として、大規模校だから、小規模校だから良くないというわけではないということです。</p> <p>大規模校では大人数による多様な児童生徒による社会性を育むことができますし、大規模校であるため教職員数も多く配置され、多くの大人の目による様々な視点からの見守りが可能であったりと、良い特色もたくさんあります。</p> <p>小規模校では少人数であるがゆえ、児童と教職員の距離を近くとるこ</p>

	<p>とが可能となり、より個に応じたきめ細やかな指導が可能になるなど、良い特色もあります。</p> <p>しかし、その一方、小規模校においては限られた児童のみによるコミュニティの硬直化ですとか、学校によっては2クラス設置が困難な場合は、6年間全く同じ顔ぶれで学校生活を過ごさなければならないなど、良い点も良くない点もあります。</p> <p>あま市では「公共施設総合管理計画」、「公共施設再配置計画」など、いくつかの計画が既に策定済みです。</p> <p>高度経済成長期以降に集中的に建設、配置された校舎等の老朽化の問題もあり、児童生徒が減少傾向にある少子化の現状を踏まえ、今後持続可能なあま市としての教育を考えたときに公共施設としての学校を見直してはどうかという内容となっています。</p> <p>なお、行政が一方的に実施できる内容ではないことは当然のことで、すぐさまそのとおりに実施するという性格のものではありません。あま市の持続可能な方向性として、どのように考えて行くのかということです。</p>
書記	<p>本日、資料をご持参いただいた委員の方がたについては、小中学校のあり方②小中一貫校についてのA3一枚の資料をご覧ください。</p> <p>平成27年の学校教育法の改正により、義務教育段階における学校の種類が、今まで小学校と中学校であったものに加えて、義務教育学校が選択可能となりました。</p> <p>義務教育学校は、従前の小学校6年間、中学校3年間を併せた9年制の小中一貫した教育を行う学校の種類となります。</p> <p>この小中一貫した教育を実施しようとしたとき、選択肢は2つあります。一つは、さきほどの義務教育学校を設置すること、もう一方は、併設型小学校、中学校とすることです。</p> <p>小中一貫教育のメリットについて、いわゆる「中1ギャップ」の是正、学校現場の課題の多様化、複雑化への対応、それにともなう学校に期待される役割の相対的増大への対応が挙げられています。</p> <p>小中一貫教育の実施に際し、教育課程において様々な特例がもうけられ、従来の6-3制教育だけではなく、4-3-2制や5-4制など多様な選択肢を選ぶことが可能となります。</p> <p>義務教育学校を選択することで、従来の学校区を変更することなく、新たな学校種として設置することが可能となりますが、手続き上、従来の小中学校の廃止を伴いますので、越えるべきハードルは高くあります。</p> <p>なお、愛知県内では飛島村、西尾市、瀬戸市に小中一貫校があります。</p>
書記	<p>続いて、本日ご意見を頂く2つ目のテーマについてご説明します。</p> <p>本日、資料をご持参いただいた委員の方がたについては、小中学校の</p>

あり方③施設等の共有化・複合化についてのA 3 三枚の資料をご覧ください。

施設等の共有化とは、現在各学校に設置してあるプール、体育館、武道場などの施設について、一つの学校に一つの施設を設置するのではなく、一つの施設を複数の学校で共有する考え方です。

近年、海部津島地域においても実施がすすめられてきているもので、津島市でもプールの共有化が図られていると聞いています。

今回の場合は、民間施設を利用することも範囲に含めています。

施設等の複合化とは、少子化の流れの中、余裕教室が生まれた場合に、その余裕教室を子育て支援サービスを提供する場所とするなど、学校の施設に複数の役割を持たせる考え方です。

なお、仮に共有化を図ることによって、不要となった学校用地が発生した場合、売却も検討に入ると考えられますが、その際は当該学校用地が借用によるものであることがあるので注意が必要です。

また、施設整備方針にしたがって備えておくべき施設があることにも注意が必要です。

管理側面としての注意点は、先に述べたとおりですが、実際の運用面での注意点としては、例えばプールを共有化又は民間委託とした場合、今まで授業1コマで実施できていたプールの授業が、移動を含めて2コマ必要になることや、移動時の安全面、移動時に事故が起きた時の補償など、経費以外の考慮点もあることに注意が必要です。

また、民間のプールを必要時のみ借用し、当該プール施設の小型バスによる送迎をしたとしても、少なからぬ経費が必要となります。

施設の複合化に関して、既に行っている学校施設を子育て支援サービス又はスポーツ開放に利用しているものを一覧としてご確認いただきました。本取組を余裕教室の状況をみながら、一層進展していくことにより、余裕教室対策とすることが考えられます。

また、第2回にて施設等の共有化・複合について追加の資料をご提示させていただいています。

あま市内及びあま市近隣の民間プール施設へ仮にプール授業を依頼した場合に受注可能か照会したところ、いずれも可能であると回答を得ました。ただし、どの施設も通常営業の合間での実施となる事から、1か所で全校を賄うことはできないということでした。

名古屋市が学校外プールの活用について県内全市町村に照会を令和4年2月中旬に行っており、その結果をご提示させていただいています。この結果では、既に活用している自治体の方が多いことが分かります。

令和3年11月に近隣の民間プール施設である、あま大治スイミング

	<p>スクールが学校のプール授業に係る営業をあま市教育委員会にしており、その際に甚目寺南小学校と美和中学校の見積書を受理しています。</p> <p>プールの自校設置のケースと民間プールの見積書の比較を確認していただきました。見積書では小学校1校中学校1校しかありませんでしたが、クラス数をもとに見積書の内容で再計算した試算をご確認いただき、一概に民間プール施設に委託したほうが安価となるわけではなく、クラス数で安価となるケースと高額になるケースが発生することが確認いただけました。</p>
山田委員長	ありがとうございました。
山田委員長	それでは、「議題（3）前回までのご意見まとめ」に入ります。事務局説明をお願いします。
学校教育課長	<p>まず、委員の皆さまにおかれましては、第1回、第2回のご意見をいただき、ありがとうございます。</p> <p>第1回、第2回及びアンケートによっていただいたご意見の概要を担当からご紹介いたします。</p>
書記	<p>ご説明します。</p> <p>第1回にいただいたご意見については、第2回でご紹介させていただいておりますので、お手元の資料でご確認をお願いします。</p> <p>第2回にいただいた意見は、</p> <p>全般</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 あま市の学校教育関係予算について 2 ソフト面での今後の展望について 3 地域住民の声を十分に聴いて実施してほしい 4 チーム学校で学校運営を行っていききたい 5 場合によっては計画を変更することも選択肢に 6 学ぶ力について、共生にについて <p>小規模校と大規模校について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 今後の児童生徒数増加の見込みについて <p>小中一貫校について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒数減少をとどめる課題解決となれば 2 子ども達のことを考えながらもスピード感を施設等の共有化・複合化について <ol style="list-style-type: none"> 1 民間プールの活用について 2 民間プールの活用のきっかけについて 3 耐用年数30年での民間プール活用との比較について 4 市長部局の他計画の進捗状況について 5 水泳指導の効果と方針について 6 子ども達はプールの活用が大好き <p>これからの学校・学校と学校・学校と地域のあり方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育立市プランの着実な進捗を 2 児童生徒の個々の特性に合わせた育みについて <p>I C T利活用における学校のあり方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 I C T利用教育の知識や指導力の向上について

	<p>以上のご意見を頂きました。ありがとうございます。 以上で説明を終わります。</p>
山田委員長	<p>ありがとうございました。</p>
山田委員長	<p>それでは、「議題（４）小中一貫校・小規模校と大規模校の賛否及び期待すること懸念すること、課題」に入ります。 前回までの委員会でも意見を頂いています。 本テーマについては、今回までいただいたご意見で報告書が作成されますので、よろしくお願ひします。 なお、いただくご意見について、事前に配布してある資料の順番で、賛否、期待すること、懸念すること、課題、その他の順にお願ひします。</p>
学校教育課長	<p>最初に概要についてご案内します。 小規模校と大規模校、小中一貫校について ○複数小中学校を統合し小中一貫校とすることは可能か。 ○人口密集かつ増加傾向地域と人口過疎かつ減少傾向とあるなか、小学校及び中学校の配置は適当か。学級数の過大な学校と過小な学校とがあるが、小学校及び中学校の規模は適当か。 です。</p>
溝口委員	<p>小規模校と大規模校、小中一貫校について 賛否：賛成 期待すること：○小中一貫校に期待することは多々ある。 懸念すること：○地域の方々はどう思っているのかということに十分配慮しながら進めて行かなくてはならないと考える。 ○地域の実情に合わせた形にしなければならない。飛島村では上手くいっていたものでも、あま市では異なる可能性もある。 課題：○地域の方々の意見を十分に聞く必要がある。 ○飛島村とあま市の地域の実情の違いに十分考慮して進める必要がある。 その他：○最初から義務教育学校として始めるものか、小学校・中学校の併設型から始めるものかはどちらが良いかは分からない。</p>
加藤委員	<p>小規模校と大規模校、小中一貫校について 賛否：賛成 期待すること：○大規模校では小規模校と比べて子どもたちは多くの児童のなかでもまれて切磋琢磨し、人間関係にこじれが生じても、学年ごとでリセットできる。 ○学年主任を中心に学年でチームを組んで分断しながら様々な課題に対処できる。 ○小規模校の良さもあるが、学年ごとに2～3クラスの規模が一番適正ではないかなと思う。 ○小学校での教科担任制も中学校の先生の力を借りて実施していける。小学校からの学力アップが期待できる。 ○あま市としての魅力とすることができ、よりよい教育を求めて人が集まる要因とすることができる。 懸念すること：○七宝小から宝小、宝小から秋竹小と分離新設からかなり経過し、親子三代宝小という方もいる。学校運営にもとても協力</p>

	<p>していただいて、心強いところであるが、それだけ学校に思い入れが強いということでもある。そういった感情についても配慮する必要があると考える。発展的であり未来的な学校のかたちということを説明していく必要があると考える。</p> <p>課題：○保護者や地域の方々の意見や感情に配慮する必要がある。</p> <p>○小学校と中学校では施設面で成長に合わせた違いがある。階段・黒板の高さなど。</p> <p>○小規模校では、先生も子ども達もお互いのことを良く知っている状態が作れる。人間関係もとても濃厚で、家庭的な雰囲気。学級運営を担任一人でやっていて大変ではあるが、全職員が皆で育てるという意識で取り組むことができる。人間関係にこじれが生じたときは、リセットできない。</p>
安江委員	<p>小規模校と大規模校、小中一貫校について</p> <p>賛否：賛成</p> <p>期待すること：○教育長がおっしゃった、日本一の学校ができるのではないかという言葉に期待したい。</p> <p>○教科の連携が深まりやすくなる。中学校の社会の先生が小学校に教えに行く、あるいは英語の先生が行くといったことが可能になる。中学校の先生から見ても、小学校ではここまで学習してきているのだということが分かりやすい。中学校の職員が小学校に行き、児童の様子や状況を見たりは年度末あたりに行っているが、年間を通して可能となる。</p> <p>○中1ギャップの解消につながる。</p> <p>○教職員間のフォローを行いやすい。特に小規模校では全教職員が教室に行き、職員室が空になる事もよくある。何らかの事情で長期の休みを取るようになった場合は、役職者が代わりに授業を行うなどの対応が必要となる。小中両方の教職員がいれば、それぞれフォローを行いやすい。</p> <p>○不測の事態が起きたときに、小中両方の先生がいた方が、素早い対応が可能となる。多くの目で児童生徒を見守れる。</p> <p>その他：小中連携型から始めると良いと考える。</p>
溝口委員	<p>小規模校と大規模校、小中一貫校について</p> <p>賛否：賛成</p> <p>期待すること：○毎年夏に行われる幼保小連絡協議会が開催されるが、保育園と小学校の情報共有と連携を行うことができ、園児が小学校に安心して入学できる助けとなっている。</p> <p>○園児が小学校に見学に行ったり、中学生が保育園に職場体験に来たりと交流が行われている。双方の良い影響を与え合っている。小中一貫教育が子供にとって、良いものとなって欲しい。</p>
林委員	<p>小規模校と大規模校、小中一貫校について</p> <p>賛否：賛成</p> <p>期待すること：○かつて中川幼稚園は、500人を超す、県内で最も大きな幼稚園の一つであった。現在は150～180人ぐらいだが、園児のことを考えると現在の中規模が良いと確信している。大規模</p>

	<p>すぎると園児と先生の関係も希薄になる。現在の中規模では園児と先生の関係も密にできている。</p> <p>○現在は先生に余裕も生まれて、カリキュラムも非常に充実している。様々な取組をすることも可能となっている。</p> <p>○あま市としての教育の魅力を向上させることができる。私は昭和区に住んでいて、子どもが小学校が入学したときに、同小学校長が、当学区は名古屋市屈指の治安のよいエリアであると説明されており、とても良いところに引っ越してきたなど感慨を持った。あま市がそういう環境になればいいなと思う。</p> <p>○以前住んでいたアメリカの州では、小中一貫教育が一般的で、世界でもスタンダードなのではとも思う。そういうシステムを先んじて、あま市が取り組むことで地域の魅力であり特色になるのではないか。</p>
佐藤委員	<p>小規模校と大規模校、小中一貫校について</p> <p>賛否：分からない</p> <p>期待すること：○小学校から中学校へ新規一転切り替えることができる、保護者の方も賛同してもらえるような仕組みがあれば、賛成側に考えも向くか。</p> <p>懸念すること：○自分も、子ども達も、いわゆる一般的な学制のもとで教育を受けてきたので、小中一貫校については正直、分からない。小中一貫校になることで、子ども達にどのような影響や、効果や、環境の変化があるのか分からない。プラスもマイナスも想像できていない。</p> <p>○人間関係に不安を感じていて小学校に通うことが出来なかった子が、中学校に上がるに際して、リセットされて通うようになれることもあるのではないかとも思う。小中一貫教育で、そういったリセットのチャンスや期待がなくなるのではないか。</p> <p>課題：○子ども達が主役である。子どもの視点から、変化がデメリットになってはいけない。</p> <p>○保護者の方の理解を得る必要がある。</p> <p>○地域の方々の理解を得る必要がある。</p> <p>○学校関係者にはわかることも、保護者の方々や、地域の方々には、分からないこともある。上手く理解をしていただけるよう努力が必要である。</p> <p>その他：○小規模校と大規模校については、それぞれメリットデメリットを様々説明していただいて、それぞれに一長一短あるように感じている。</p>
古川委員	<p>小規模校と大規模校、小中一貫校について</p> <p>賛否：賛成</p> <p>期待すること：○中1ギャップ、不登校の減少を期待。</p> <p>○先進的な取り組みによる、あま市の教育施策の向上に期待。</p> <p>懸念すること：○教育的な観点から、人間関係が変わらないことから、いじめの継続化、悪化があるのではないか。(小規模校の単学級では</p>

	<p>逆に現状で硬直化してしまうとも他から意見あり。)</p> <p>○通学距離が長くなり、徒歩で通えなくなる児童生徒が出てくるのではないか。(他地区ではバス通学もある。)</p> <p>○学校の整理をする場合は、巨額の公費投入を必要とし、既設建物を活用しても大きな投資を必要とする。</p> <p>課題：○場所については、都市計画マスタープランを考慮して人口動向を注視して適切な選択する必要がある。30年後に同じ議論をしていてはいけない。</p> <p>○魅力に伴って、児童生徒の減少に歯止めをかけられるような、課題解決であるようにしてほしい。</p> <p>○小中一貫教育に際して、規模を考慮する必要がある。</p> <p>その他：○七宝北中学校通学制度を改変して、小学校から通うか否かを選ぶことができる制度としてはどうかと、関連して他から意見が出た。</p>
早川委員	<p>小規模校と大規模校、小中一貫校について</p> <p>賛否：賛成</p> <p>期待すること：○小中一貫校による学校の統合により、公共施設の延べ床面積の縮減を図ることができる。維持管理経費や運営費も縮減が期待できる。</p> <p>○教職員の配置についても余裕を持ったものとしていくのではないかと。</p> <p>○学習面の向上を図る。また、中学校への進学に不安を感じる児童の減少が期待できるのではないかと。</p> <p>懸念すること：○小中一貫校ありきではなく、統合についても考慮に入れて欲しい。</p> <p>課題：○公共施設は老朽化が進んできており、総合計画や再配置計画、長寿命化計画のなかでも、大規模な改修を要する時期に来ている。</p>
恒川委員	<p>小規模校と大規模校、小中一貫校について</p> <p>賛否：賛成</p> <p>期待すること：○たくさんあるものが、一つに集約することでコストの削減が期待できる。</p> <p>○削減できた予算を子ども達のために使うことができる。</p> <p>○自信の子供時代を振り返ると、児童生徒が多くいて、友達がたくさんいた方が良い思い出となっている。</p> <p>○児童数が多い方が、競争原理も働きやすいのではないかと。</p> <p>○頑張っている良いものを作れば、市としての魅力の向上につながり、人口減少から増加に転化できないかと。</p> <p>懸念すること：○住民の方や、子ども達の理解を得られるように時間をかけて説明していく必要があるのではないかと。</p> <p>課題：○小中一貫校の校舎を考えると児童クラブや子供教室を含めた、トータルで考えていただきたい。</p> <p>○施設のユニバーサルデザインに考慮して改修、建設をしてほしい。(階段の高さも小学校と中学校で違う。)</p> <p>○財政的に厳しいおり、さらなる資金の投入は市民の理解を得られるよう説明を。</p>

山田委員長	<p>小規模校と大規模校、小中一貫校について 賛否：賛成 期待すること：○小中一貫から義務教育学校の方向へ進むべきであると考える。</p> <p>○海部地域では飛島村、石川県では珠洲市に義務教育学校があるが、珠洲市では義務教育学校になっても、1クラス10人しかいない。特色としては、地域と一体化する。地域の人にどんどん入っていただいている。岐阜の白川郷学園では、ICTを活用している。飛島学園は授業にとっても力を入れている。いずれも魅力ある特色がある。</p> <p>○教育長は先ほど日本一の学校を目指したいとおっしゃったが、義務教育学校により特色ある学校づくりができていくのではないか。</p> <p>○校長が一人になる事が大きい。校長が一人で9年間を見通した学校経営をすることは大きなメリットである。</p> <p>懸念すること：○初期設備投資をどれだけ出せるのか、運営費をどの程度縮減して行けるのかを精査する必要がある。</p> <p>○遠くから通ってくる子は、家に帰ってから遊びに行けないという事例もあった。</p> <p>課題：○最終的に義務教育学校として特色ある学校づくりを行っていくまでに、非常に時間がかかる。多くは、小中一貫校から義務教育学校へ徐々に移行している。</p> <p>○徐々に子ども達も変化に慣れていく。急な変化には子供たちが慣れていけない。子ども達がメリットを感じられるか検証しながら進める必要がある。</p> <p>○どういうスタイルで授業をするか、施設をどのように使うかが課題。</p> <p>○ICTを活用して、遠隔授業を行うなど義務教育学校へ移行するまでの交流の助けとなるだろう。</p> <p>○児童クラブを学校の中に作るなどの工夫が必要である</p> <p>その他：○平野部での義務教育学校はまれ。</p>
山田委員長	<p>ありがとうございました。</p>
山田委員長	<p>それでは、「議題（5）施設の共有化・複合化の賛否及び期待すること懸念すること、課題」に入ります。</p> <p>先ほどと同じように、事前に配布してある資料の順番で、賛否、期待すること、懸念すること、課題、その他の順にお願いします。</p>
学校教育課長	<p>施設等の共有化・複合化について</p> <p>○プール、体育館、運動場、武道場、校舎等の施設・設備等の複数小中学校による共有化は可能か。</p> <p>○社会教育、図書館、社会体育、子育て支援等の他法他施策による余裕教室等の利用により、学校施設を複合的に利用することは可能か。です。</p>
溝口委員	<p>施設等の共有化・複合化について 賛否：賛成 期待すること：○施設の複合化を進めていく必要はあると考える。とても大事なことである。</p>

	<p>懸念すること：○学校施設の目的外使用について、社会教育のための施設利用は、学校を開放して市町のスポーツクラブ等がグラウンドなどを利用する。その時に駐車場へ置いてある自動車の置き方が乱暴であるケースがあった。また、学校敷地内で喫煙していた利用者もいて気になった。節度ある利用をお願いしたい。</p> <p>課題：○今後、部活動の在り方も変わってくるみこみであるため、スポーツ団体の利用も増えてくる見込みである。学校施設にふさわしくない使用方法をする団体へはスポーツ課を通じて、その都度当該団体へは注意をしているし、今後もしていかななくてはならない。</p>
加藤委員	<p>施設等の共有化・複合化について</p> <p>賛否：賛成</p> <p>期待すること：○共有化について、管理コストの削減という面ではメリットがあると思う。</p> <p>○複合化について、本校では児童クラブが複合化で設置されているが、児童は下校してそのまま同一施設内の児童クラブに行けることは、保護者にとっても教職員にとっても安心である。</p> <p>○図書室を市の図書館の分館のような運営をしていただければ、司書も来てもらえるし、蔵書も全体の中で効率化し、一定期間で更新したりもしやすいのではないか。</p> <p>○校庭やプールを一般に開放して使っていただければ、空き時間の有効活用となる。</p> <p>懸念すること：○複数校でのプールの共有化をした場合、移動時間が必要となる。自身の子供時代に通った小学校はプールが無く、近くの学校へ借りに言っていたのだが、30分ほどかけてクタクタになりながら歩いて行って、貸してくれている小学校の児童から貧乏学校と揶揄されながら利用した記憶がある。往復1時間ほどかかって、ほとんど半日がかりであった。</p> <p>課題：○余裕教室がない。コロナ禍で児童を分けて給食を食べさせたいと思ったが、そのための教室は確保できなかった。</p> <p>○一般開放する場合は、児童の在校時間には難しいと考えている。</p> <p>○一般開放する場合の利用者のマナーの問題や、戸締りなどの問題や設備破損時に教員の負担増にならないか心配。</p> <p>その他：○北名古屋市の事例で、学校運営協議会が盛んで、学校運営協議会の構成員が学校に常駐する部屋があって、依頼事項があると即時答えてくれる環境があるときいた。</p>
安江委員	<p>施設等の共有化・複合化について</p> <p>賛否：賛成</p> <p>期待すること：○プールについては、維持費とスポーツ施設に委託する費用を比較すると、インストラクターの費用を合わせても、同じくらいの費用ですむと聞いたことがある。他市の事例を聞くと、専門のインストラクターの指導を受けることによって、より教育効果の高い水泳指導ができているとのこと。私の前任校のすぐ近くの学校では、学校のプールへインストラクターが来て、夏休み中や短縮期間に泳げない児童を指導していると聞いた。専門のインストラクタ</p>

	<p>一だけあって、泳げない児童を集めて指導していて、ものの数日で泳げるようになるまで持っていく様子に感心したと聞いた。校外へ持ち出すことによる時間的コスト増もあるが、専門のインストラクターによる指導はメリットがあると思う。</p> <p>○余裕教室については、本校は全くなく、むしろ教室が欲しいくらいだが、余裕教室がある学校では、それ用の先生が必要になってくるが、通級指導教室のようなものを設置できないかと思う。</p> <p>懸念すること：○プール、体育館、運動場等を複数小中学校で共有することについて、現場での現状を見ると困難であると言える。時間割を作る際に、雨などで運動場が使えなくなって、体育館や武道場を使うことを考えている。あるいは、理科室などの特別教室についても重複しないように調整して時間割をつくる。同じ学校内でだけでも調整や変更が必要な状況である。複数校で調整することは、難しい状況である。</p> <p>課題：○一つの施設に複数校が行くことになると、夏の期間に終われず、秋までかけて日程調整することになる。</p>
溝口委員	<p>施設等の共有化・複合化について</p> <p>賛否：分からない</p> <p>その他：○今回からの参加ということもあり、皆さんの意見を聞かせていただいて、勉強させていただきました。</p>
林委員	<p>施設等の共有化・複合化について</p> <p>賛否：賛成</p> <p>期待すること：○施設の複合化を考えたときに、施設の増改築は必要となる。あま市に限らず、学校の施設はグレーで汚れていて、見た目がよいとは言えないと思う。外観の塗装ひとつとっても、やり方はコストをあまりかけずに魅力のあるものにするのは可能であると、自身の園の経験から思った。子ども達には楽しく通えるように、子ども達の記憶や心に残る施設であってほしい。自身の園のデザイン案を考えるとときに海外の小学校の塗装デザインを見たりしたが、どこもカラフルで魅力的だった。差し色ひとつでもデザインで違ってくる。ぜひ、今後の外装工事の際には、構造を変えるとお金がかかるがデザインで楽しいものにしてほしい。</p> <p>懸念すること：○施設の老朽化は、私も幼稚園経営するなかで頭の痛い問題である。</p>
佐藤委員	<p>施設等の共有化・複合化について</p> <p>賛否：賛成</p> <p>期待すること：○施設の複合化については、自身の子が通う小学校にコミュニティルームができ、読み聞かせ等で活用しているのだが、その部屋が出来たことによって、学校へ行くハードルがとても下がったと感じている。子ども達の様子を見ることができ、楽しく活動させていただいている。地域の方々の関心が高まることも期待できると感じる。</p> <p>懸念すること：○施設の共有化は、授業の時間を考えるとハードルが高いと感じる。</p>

古川委員	<p>施設等の共有化・複合化について 賛否：賛成 期待すること：○共有化、複合化により、財源の効率化が期待できる。 ○学校の空き教室の利用について、人口減少地域では良く聞かれるものですが、学校が地域活動の場となり、学校区単位でのコミュニティの活性化が期待できると考える。 懸念すること：○共有化により、距離がのびることにより児童生徒の移動手段 課題：○民活化する際の費用対効果を再度精査する必要があると感じる。 ○共有化、複合化については児童生徒の理解を必要とすると考えます。 ○働く女性が多い社会経済情勢を考えたときに、学校の空き教室を利用した児童クラブの活用は、求められているところであると考えます。 ○教職員の理解も必要であると考えます。</p>
早川委員	<p>施設等の共有化・複合化について 賛否：賛成 期待すること：○図書館との連携により、調べ学習の幅が広がることを期待できるのではないかと。 ○余裕教室の活用により、児童クラブ等の利用をすることにより、同一施設内で完結させることが可能となって教育の連続性を増進させることができるのではないかと。 ○複合化することにより、地域住民や異年齢者との自然な交流が生まれてくるのではないかと期待する。 ○単体で整備するよりも、複合化させた方が市全体での支出の平準化や削減も期待できる。 課題：○施設内で児童生徒と地域住民の動線が交錯することが出てくるが、その際のセキュリティ対策が必要。カギをかけて別々にできるようにしたりする必要があると考えます。 ○教職員の理解を得ることが必要。 ○複合化した時に、学校と他の利用でそれぞれ音を出す活動があった際に、互いに支障をきたさないように配慮する必要がある。</p>
恒川委員	<p>施設等の共有化・複合化について 賛否：賛成 期待すること：○複合化することにより、コスト削減効果が期待できる。 ○ひとり親家庭の学習支援でも、生活困窮世帯の学習支援に空き教室があれば、使わせていただきたい。 懸念すること：○再配置計画では、多くの児童館が取り壊しとなっているが、現状の学校の空き教室状況のなさを考えたときに、果たして複合化させることが可能なのか、現実的なのかも考えている。 ○保育園でも、遊戯室を一部保育室にしたりと、余裕がない状況があるなか、小学校も同じように、余裕教室が多くある状況ではないのではないかと心配する。 課題：○児童クラブとして活用させていただける部屋がある場合は拡充できればしていきたい。 ○学校の使用状況によって、年度により使える部屋を変える必要がある</p>

	<p>る。</p> <p>○子供教室等で体育館を利用させていただいている状況があるが、防犯面はしっかりとやっていかななくてはいけないと考えている。</p>
山田委員長	<p>施設等の共有化・複合化について</p> <p>賛否：賛成</p> <p>期待すること：○共有化、複合化は進める必要がある。</p> <p>○地域との連携、活性化は、学校運営協議会とコーディネーターさんが中心となって進めていくべき。コミュニティスクールのための部屋があると良い。</p> <p>○子育てサークルが学校の複合化で入っているケースもある。</p> <p>○施設の複合化として児童クラブが校内にあれば、効率が良い。</p> <p>○夏休みになると、校舎はまるっと空いているので、その間だけでも学習支援などに活用できると良いのではないかな。保護者の負担軽減にもつながる。</p> <p>懸念すること：○行政にお願いするばかりではなく、学校を共有化、複合化に当たっては、そのための体制をとっていく必要がある。</p> <p>課題：○セキュリティも考えながら、進めて行ってほしい。</p> <p>○施設の共有化では、移動時間が大きな問題である。</p> <p>○プールの利用については、コロナ禍もあり使用頻度が下がってきているところであるので、メスを入れていくところかと考える。</p>
山田委員長	<p>ありがとうございました。</p>
山田委員長	<p>追加でご意見を発表されたい方、ご質問がある方はいらっしゃいますか。</p>
委員全員	<p>特になし。</p>
山田委員	<p>以上で、本日の議題を全て終了しました。</p> <p>事務局に進行をお返しします。</p>
学校教育課長	<p>委員の皆さま、ご意見をありがとうございました。</p> <p>続いてその他1点目として次回以降の日程及び内容について、ご説明いたします。</p>
書記	<p>ご説明します。</p> <p>できるだけ多くの方にご参加いただける日程を調整させていただきたいと思います。次回 第4回あま市小中学校あり方検討委員会について、8月又は9月にも開催できたらと考えます。</p> <p>お手元の8月及び9月の日程調整用紙について後日ご提出いただき、調整をさせていただきます。また、用紙のワードで作成したものを、メールでお送りさせていただきますので、そちらでご提出いただいてもかまいません。</p> <p>なお、第2回委員会でご検討いただいたように、次回第4回委員会では、④これからの学校・家庭・地域、⑤ICT利活用、⑥働く場としての学校について、ご意見を頂きますので、過去の資料を見て頂いたり、質問を事務局に頂く等の準備をお願いできますとありがたいです。</p>

	<p>また、第2回委員会の最後に学校教育課長からお願いとしてお話をさせていただきましたが、</p> <p>昨今のあま市に限らず全国的な課題でもありますが、不登校の児童生徒数がとても多くなってきています。</p> <p>あま市では、教育相談センター、適応指導教室、各学校の特別支援学級、派遣指導員の巡回、学校カウンセラーと連携をしながら対策を行って来ていますが、コロナ禍の中、その数を増やしてきています。</p> <p>これら、特別支援教育だけでなく、不登校対策等についても、次回にご意見、ご見地を頂けるとありがたいです。</p> <p>次回のテーマでは、ICT利活用を含んでいます。</p> <p>ICT利活用については、手探りながらも一つずつ課題を解決しながら学校の先生方による課題検討委員会とも協力しつつ進めて行っています。このICT利活用についても、こんなことをしてはどうだろうか、こんな使い方ができたら面白いんじゃないかといったものでも結構なので、ご意見が頂けたら有難いです。</p> <p>第5回を10月又は11月、第6回を12月又は翌1月に予定しております。日程調整のための照会をお送りいたしますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>第5回委員会では、第4回委員会までにいただいたご意見をまとめた報告書案についてご提示し、加除修正等のご意見を頂く予定をしております。</p> <p>第6回委員会で、最終的な報告書の完成を目指します。</p>
学校教育課長	<p>続きまして、その他2点目として、追加質問・ご意見について、ご説明いたします。</p> <p>第1回及び第2回の委員会においてお渡しした資料及びそれぞれのテーマについて、質問又は追加で提出を求める資料等のある場合は、メール、FAX、電話等で事務局までご連絡いただきますようお願いいたします。作成できる資料については作成して次回委員会にてご提示できればと思います。</p>
学校教育課長	委員の皆さま、他にございますか。
学校教育課長	<p>本日はお疲れさまでした。</p> <p>本日の会議の大要をまとめた議事録を作成し皆様にお送りします。議事録をご確認いただき、修正の必要がある場合は、その旨学校教育課までお知らせください。</p> <p>修正等の済みしだい議事録をあま市ホームページで公開します。</p> <p>次回、またよろしくお願いいたします。</p> <p style="text-align: right;">【閉会時刻 午前11時35分】</p>
	後日、欠席された小林副委員長から文書で意見を受理した。
小林副委員長	小規模校と大規模校、小中一貫校について 賛否：賛成

	<p>期待すること：○将来的な人口動態予測、現在の公共施設の管理計画も踏まえながら、適正な規模での学校運営ができるよう統合、中小一貫設立の検討をしていただきたい。</p> <p>○小中一貫校は、児童生徒の成長を長期的な目で見守ることができるとともに、それゆえにできる教育実践の可能性も広がると思います。メリット、デメリットを忌憚なく論じ、検討できる環境を整えていただきたいです。</p> <p>懸念すること：○財政面も踏まえた現在の実現可能性はいかほどのものかをリアルに知りたいです。</p>
<p>小林副委員長</p>	<p>施設等の共有化・複合化について</p> <p>賛否：賛成</p> <p>期待すること：○制度的、財政的に共有、複合化が可能であるならば、取りうる策として柔軟に可能性を模索するのが良いと思います。</p> <p>懸念すること：○前回プールでお示しいただいたような予算感も大切ですが、施設共有、学外施設の利用となると、学校ごとに配慮すべきこと、児童生徒の負担となることが出てくると思います。その辺りを丁寧に検討した上での体制の整備ができればと思います。</p> <p>その他：○学校規模、現状の施設の状況によって各校の課題感は異なるかと思います。現場のリアルな声を聞いた上で、課題解決に資する方策をご検討いただきたいです。</p>